

予報期間 9月17日から9月23日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 19日から20日は、高気圧が日本海から日本のはるか東に移動し、気圧の谷が日本付近に進む。
- 21日は、低気圧が日本の東を進み、気圧の谷が北日本に進む。高気圧が中国東北区に移動する。
- 22日から23日は、高気圧が中国東北区から日本海に移動する。

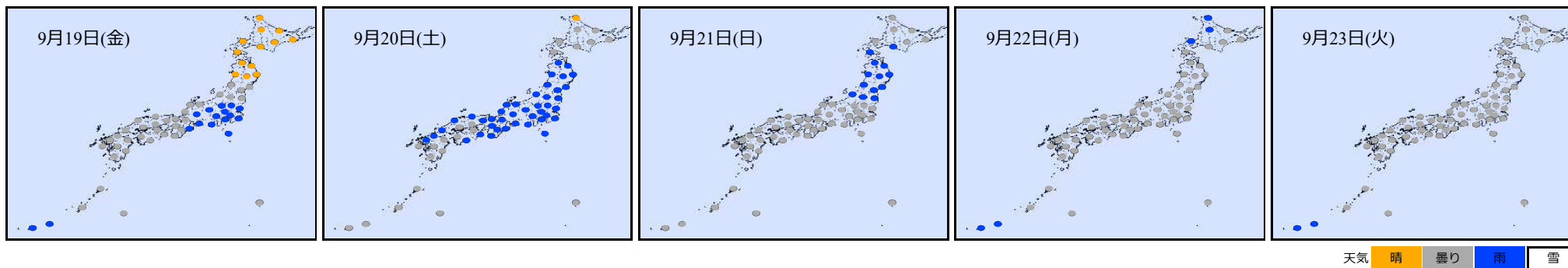
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

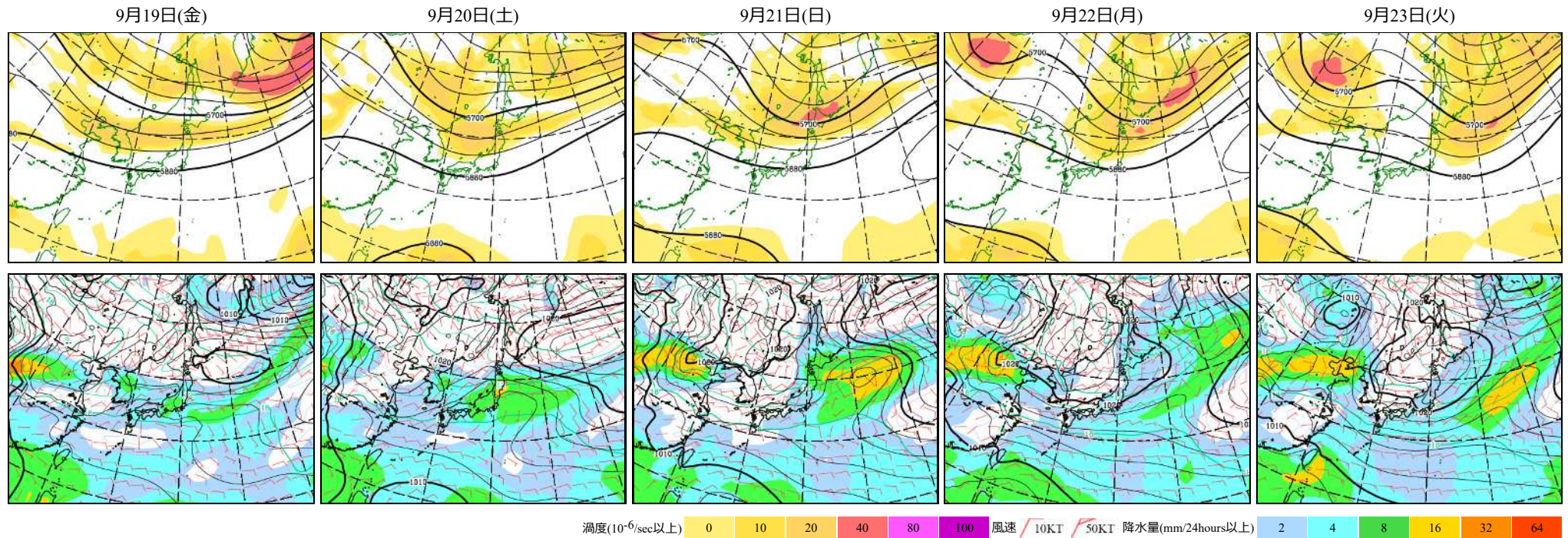
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

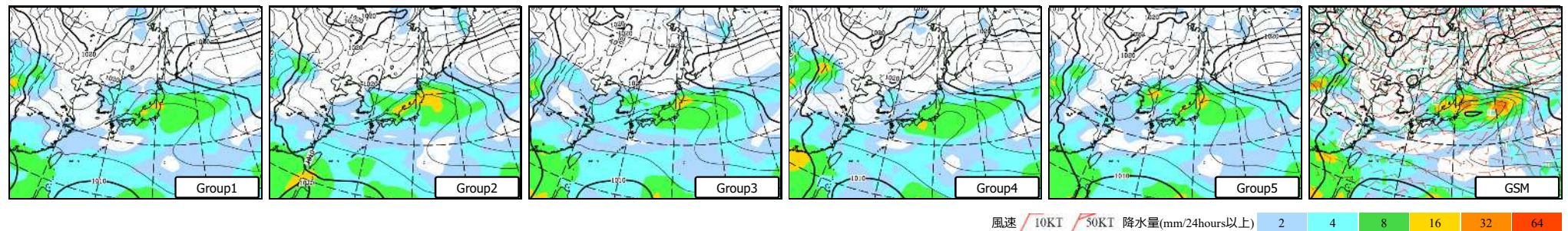


- 北日本は、19日は晴れる所が多いが、20日から23日にかけては雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、19日と20日に雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、20日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。21日に日本海北部に進むトラフがやや深くなった。地上の気圧配置の予想は、21日に日本の東に進む低気圧と中国東北区の高気圧が明瞭になった。
- 20日から21日に日本海を進むトラフについては、初期値変わりしたモデルがあり、モデル間の差が大きくなった。また、海外モデルは22日以降に沖縄の南に熱帯じょう乱が進む予想が続いている。
- ECMは、20日に日本海を低気圧が発達しながら進む予想に変わった。ENSには、ECMに近い予想をするメンバーもあるが、数は少ない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 期間の終わりに熱帯じょう乱が沖縄の南に進む可能性もある。今後の資料に留意。